

津波から命を守るために ～東日本大震災15年・次の巨大地震への教訓



【写真提供：朝日新聞社】(宮城県気仙沼市)

日 時 2026(令和8)年1月23日(金) 13:00~16:30

場 所 仙台市戦災復興記念館 記念ホール
(仙台市青葉区大町2-12-1)

主 催：朝日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

共 催：河北新報社

後 援：内閣府政策統括官(防災担当)、復興庁、総務省消防庁、
岩手県、宮城県、福島県、兵庫県、仙台市、関西広域連合

開催趣旨

阪神・淡路大震災から生まれたシンクタンク、ひょうご震災記念21世紀研究機構と、戦前戦後を通じて防災報道を重視してきた朝日新聞社は、防災・減災の研究機関や開催地の報道機関等の協力を得て、防災意識を高め、安全・安心な減災社会の実現をめざす「21世紀減災社会シンポジウム」を、毎年共同で開催しています。

2026年3月には東日本大震災から15年の節目を迎えます。今回は、東北の地域報道を担う河北新報社とも連携して、東日本大震災の大きな教訓である津波防災に焦点をあて、南海トラフ地震など次なる巨大地震の切迫性が指摘される中、東日本大震災の経験から何を学び、どのように備え、教訓を伝えていくのかを考えるシンポジウムを開催します。

プログラム

13:00～13:15

開会挨拶

坂尻 顯吾 (朝日新聞社取締役 (コンテンツ統括／編集担当))
一力 雅彦 (河北新報社代表取締役社長)
伊藤 哲也 (宮城県副知事)

13:15～14:15

基調講演

今村 文彦 (東北大大学副学長・災害科学国際研究所教授 (津波工学))
演題 「東日本大震災に学ぶ
～津波の脅威から身を守る」

14:15～14:25

休憩

14:25～14:40

朗読

Team Sendai (仙台市職員有志の自主研究グループ)

14:40～16:30

パネルディスカッション

コーディネーター

御厨 貴

(ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター長／東京大学名誉教授)

パネリスト

矢守 克也

(京都大学防災研究所副所長・教授 (防災心理学))

佐藤 仁

(前南三陸町長)

丹野 祐子

(津波復興祈念資料館「闇上の記憶」代表)

越中谷郁子

(河北新報社記者)

16:30

閉会

朗読



Team Sendai (仙台市職員有志の自主研究グループ)

Team Sendai (ちむせんだい) は、2010年9月に仙台市職員有志で立ち上げた自主研究グループ。市職員だけでなく、NPOや公民館職員などの様々なメンバーとともに、組織を超えての情報共有や自己研鑽のための活動をしてきた。

東日本大震災発生後は、仙台市職員の震災体験を記録し伝承する活動を始め、未経験者でもわかりやすくイメージしやすいよう独自の伝承プログラムを作成。防災・減災に役立ててもらおうと、役所内外への出前講座やイベント等で紹介している。

基調講演

**今村 文彦** (東北大学副学長・災害科学国際研究所教授 (津波工学))

東北大学大学院修了。同工学研究科附属災害制御研究センター助教授、同教授を経て、2014年より2023年まで災害科学国際研究所長。2025年4月より副学長。

専門は津波工学および自然災害科学で、津波被害の軽減を目指し、津波予警報システムの開発や太平洋での防災対策等の研究を数多く実施。中央防災会議専門調査会委員、東日本大震災復興構想会議検討部会委員、土木学会副会長など。

現在、復興庁復興推進委員会委員長、一般財団法人3.11伝承ロード推進機構代表理事など。主な受賞は、NHK放送文化賞（平成26年）、文部科学大臣表彰、防災功労者内閣総理大臣表彰（平成28年）、濱口梧陵国際賞受賞（令和2年）。

パネルディスカッション コーディネーター

**御厨 貴** (ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター長／東京大学名誉教授)

東京大学法学部卒業。専門は近代日本政治史、オーラル・ヒストリー。東京都立大学教授、東京大学先端科学技術研究センター教授、放送大学教授などを歴任し、現在、東京大学先端科学技術研究センターフェロー、放送大学客員教授、サントリーホールディングス取締役。2017年よりひょうご震災記念21世紀研究機構現職。2018年紫綬褒章受章。2024年瑞宝中綬章受章。2011年4月より東日本大震災復興構想会議議長代理、続けて2012年2月より翌年3月まで復興庁復興推進委員会委員長代理を務める。主な著書に『「戦後」が終わり、「災後」が始まる。』（千倉書房2011年）、『別冊アステイオン「災後」の文明』（共編、阪急コミュニケーションズ2014年）などがある。

パネルディスカッション パネリスト（順不同）

**矢守 克也** (京都大学防災研究所副所長・教授 (防災心理学))

京都大学防災研究所教授（副所長）。博士（人間科学）。専門は防災心理学、災害情報学。長年にわたって地域防災や防災教育の分野で活動。開発した教育ツールに防災ゲーム「クロスロード」、津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」など。現在、日本災害情報学会会長、地区防災計画学会会長、日本自然災害学会副会長など、学会の要職をつとめる。『避難学』（東京大学出版会）、『防災心理学入門』（ナカニシヤ出版）など著作多数。NHK「明日をまもるナビ」に「ヤモリン博士」として登場するなどマスメディア出演も多数。

**佐藤 仁** (前南三陸町長)

1951年、宮城県志津川町（現在の南三陸町）出身。同町議、同町長を経て2005年、歌津町と合併して発足した南三陸町の初代町長（2025年11月退任）。2019年5月から2021年5月まで宮城県町村会長を務める。東日本大震災の当日、町防災対策庁舎で津波に巻き込まれたが生還。「なりわいの場所は様々であっても、住まいは高台に」を基本に、防災集団移転促進事業、災害公営住宅整備事業等を実施し、2023年7月に復興事業を完遂させる。

**丹野 祐子** (津波復興祈念資料館「閑上の記憶」代表)

津波復興祈念資料館「閑上の記憶」代表、語り部。東日本大震災で当時中学1年生の長男と義理の両親を亡くす。閑上中学校遺族会を立ち上げ、メンバーらとともに「子どもたちの生きた証を残したい」と慰靈碑を建立。現在は閑上小中学校に設置。「閑上の記憶」では、修学旅行生や企業研修で来る全国からの来館者を受け入れ、「語り部講話」や「閑上案内ガイド」を提供。「今後は誰も同じような想いをする人がいないように」と語り部活動を続けている。

**越中谷 郁子** (河北新報社記者)

山形県米沢市出身。2001年入社。整理部、報道部、石巻総局、生活文化部などを経て、2022年から防災・教育室。25年に機関改革により教育・防災連携室。教育に新聞を活用するNIEを担当すると共に、小中学生の防災意識向上に向け、小学生親子対象の防災キャンプを企画し、中学生対象の「かほく防災記者」、防災ワークショップ「むすび塾」事業などに携わる。25年に防災士取得。



【写真提供：朝日新聞社】（岩手県陸前高田市）



【写真提供：朝日新聞社】（宮城県気仙沼市）



【写真提供：河北新報社】（宮城県南三陸町）

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号
TEL : 078-262-5713 E-mail : gakujutsu@dri.ne.jp URL : <https://www.hemri21.jp/>